



佛

一

枚

起

請

也

蘭

選

掛木 (8)

11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20.



○もろこし
 史記樗里子傳
 滑稽 酒器
 非是 乱同
 漢各俳優本
 ○亦知
 古今集 奥義抄
 埋本本
 ○九折 八雲抄抄
 委徃見
 ○横道 宗祇曰
 非道教正道
 ○六義
 風賦比等

かゝるしや



もろこし 教習もろこし 女学又老乃ささし
 まろ 滑稽の諷刺をもあつた又奇学として
 九折れあろをささりて せも世傳せわん
 考の横道 奥義乃つらなきを何あり
 とをさししてさかひなきとさかひなきそ
 とおひひりて せも外は別乃子あきあ
 いたをさしして六義の子師とせたるも皆
 交定して何ありとるゆり伝うちよあ
 せゆるり せも又奥義をせたるをせせハ

○三十体 有心善心
 幽玄理世極民
 田雪ホ

○二祖
 山崎宗鑑 大筑波
 山田守武 千句

○六老
 貞徳 清傘
 立南 鼻干
 維舟 毛吹
 徳元 初学抄
 梅翁 女株春
 芭蕉 汗牛篇
 已上 八祖

○カカシ 此里スキヨ
 ホト、キスミヤコノ
 ウツケ全ヤマツラニ
 宗鑑カヨメルナリ
 コノ二位ノ詠ニヨルカ
 ト脇ニ思ワレケン
 ○才三ウタカタ子ナ
 キルトハツクシト木
 審ス人ハアサマシカ
 (シヨ)和哥連(哥)俳
 諧ノ差別シラヌナリ
 ウタカタ子ナルトハ
 俳諧ノ眼目ナリ
 ○僧正遍昭カ哥ハ五ニ
 カケル女ヲ見テイタ
 ツラニゴ、ロラウゴカス
 カコトシマコトスク

二祖の法をたてあもつれ法イカゲありのま
 けへーとつらき法イカゲをまうらん人のたへ一切
 乃書物をよくしイカゲ学イカゲまもも一又不知心
 思イカゲ張イカゲのたよりして強イカゲ波イカゲのまきる心のを
 学のよめりしよ回イカゲして智者のふる
 まひをせきして昔イカゲ一イカゲ真イカゲよといひは

俳諧中興因山西山梅翁翁東拂
 二万三千卷主園水門人
 也蘭註

六六韻

初イカゲ夢イカゲハイカゲこイカゲやイカゲこイカゲまイカゲけイカゲほイカゲこイカゲまイカゲり
 宗イカゲ鑑イカゲもイカゲ目イカゲをイカゲかイカゲちイカゲりイカゲみイカゲりイカゲぬ
 うイカゲこイカゲのイカゲれイカゲゆイカゲちイカゲまイカゲさイカゲれイカゲ茶イカゲとイカゲ強イカゲて
 川イカゲハイカゲ洗イカゲ濯イカゲよイカゲふイカゲハイカゲ染イカゲ刈イカゲり
 月イカゲよイカゲりイカゲまイカゲうイカゲつイカゲらイカゲはイカゲてイカゲりイカゲあイカゲまイカゲさイカゲるイカゲあイカゲら
 甚イカゲ乃イカゲ茶イカゲうイカゲれイカゲてイカゲ芋イカゲれイカゲてイカゲのイカゲをイカゲ後イカゲ
 秋イカゲのイカゲ鼻イカゲ小イカゲ揚イカゲをイカゲかイカゲめイカゲよイカゲはイカゲこイカゲ今イカゲなイカゲせ
 こイカゲまイカゲちイカゲひイカゲめイカゲれイカゲをイカゲまイカゲりイカゲ神イカゲのイカゲ言イカゲ
 高イカゲ郷イカゲ士イカゲ二イカゲ位
 坂イカゲ倉イカゲ谷
 山イカゲ茶イカゲ老
 園イカゲ水
 彌イカゲ彌イカゲ枝
 旭イカゲ山
 嵐イカゲ角
 也イカゲ京

ナキ哥ヨミラハ六哥
 仙ニテビイタルハ
 イカニト勅アルニソ
 レヲ哥ト申スヨシ
 定家卿ハ
 勅答申サレケル
 カ
 百人一首老實ノ
 評 此卿ノ骨目
 ニツケテモ偏見ノ
 人ノオトクキ説
 ナリ 活達自在
 英哲ニヤ 工案
 ○稻負多カウノ
 相傳アルモノハ和哥
 連哥ニモ憚リ
 シ 普通ハイカノ師

度おと子執事おひゆるおのころ
 ありきりぬる重の夕ぐれ
 歸りおふへやう破法世し心
 流北の身とハ私お根え
 子居けり活あるくいときく返
 宿る月の夜も名別
 ひつりうみま指さきりくま
 黒猫の美り稲 負 鳥
 銷るて月をくりひくる花を下
 圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃

ナトノ申出スコトハ
 オホケナキコトニ
 アラスヤト申ス人
 ハ此道三向不案内
 ナルモノナリ 貞徳モ
 三巻モ俳諧ニハ芳
 マル也ト申サレシ也
 ハイカイニイタスハ
 申く謙退ユナリ
 面白キ美ナリ
 サレトモ侍リヤウ
 コレアリ口伝ナリ
 先達ノイタシタル
 ヤウヲヨク眼ヲツ
 ケテ工夫スヘシ
 ○普門品ニウチツシ
 テ坊主尺教ニテ

長川おりてかゝる花は浪
 長栄さそみくおびくさひん
 閑法随かゝるすくぬ
 州又月扇の流まれ髪りくこ
 かぶくふて春へおけり
 楠乃やれ女ておちゆくひ
 日あるえくー普門品身
 海つる志れ素名と云乃横口は
 小楠をえて坊主お膝さ
 圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃 圃

アリイカ、
 近年江戸集物
 面ニ坊主ヲ出シタ
 見テ不審シケル
 トアリクシカ
 へカラヌ説ニ落居
 シタリ
 坊主モ且那モ元ハ
 尺教ナリヨク見
 ワケテ去嫌ヒハス
 へシ猶口授アリ
 〇夢モ戀ハカリニ
 ハアラス誰モ知タ
 ルコトナリ
 生死長夜ノ夢
 五夢四夢ホ
 〇ソレカラソレ蛭

吹花を胡柳おきて 腕うぢ
 夕月をひねもちつとささるる
 ひまのい時をさつらき飯
 まゝのい時をさつらき飯
 わゝゝもの障りさるるあゝあゝ
 度々——とぬく今頃おきて
 世の中はかくそわりのゆれ花をまた

也 琳 同 旭 角 巷 罽 圃 旭

イヒカケ嵐雪カ色黒
 豆ノ男ト近キコト
 フルカルヘキナリ

それをそれとしてそれそれ

角

故人

砕もせて無うみくく
 いのちの流るる葉やあつた
 新喜此は春とハヤリけり八十葉
 田子此浦うらちをさるる花を
 うらちをさるる花を

梅井 基佐
 弘永 道寸
 佐 任口
 大坂 政也

所ありし雪足は鹿や比叡れ山

北北 徳宗

如女如一七あけハ増増せん多

自自 愠

白川白一一里里ありてあり浄浄哉

荒荒 言

大所大日日ささあるある死死世世ののささめめ外

西西 宿

ままののふふそそああふふそそ一一音音のの来来乃

栞栞 翁

變体

花花とと紅紅紫紫ありありけりけり栞栞抗抗乃乃年年月月西

伝伝 信

ヤヤそそくくちちいいるるヤヤそそははああままはは代代のの名

道道 尊

徳徳儀儀牒牒ををああひひ那那ののありあり知知れれ乃乃栞栞翁

のの 終

全

文文れれ兼兼ハハままここ骨骨ああけけりりききり

全

徳徳宗宗のの海海 峯峯 文

こ

策策蕙蕙流流をを梅梅のの不不足足よよむむつついいれれ也

こ

宝永五年宝永五年瑞午瑞午於
友友至至てて杜杜をを安

自自 徳宗八十五

本本ををととああいいききふふそそああくくききをを 自自 兼

出出かかくくりりやや大大ととあありり夜夜ををんんのの 自自 兼兼 西西 角

東山即真

立浦志才七十五

花尺冨のむや一平ハ風れあ 種寛
 桑夜盆子藏^かつけて元嫁^は外^は 柳川
 氏むさや男^はそ割^は輪^は之^は女^は 立吟
 初^は涼^は雪^はと^はこ^はる^は在^は此^はぬ^は所^は 智木
 尺よ土の糸位上人袂れとせ 貞上
 あつき日や背肩仏志大へいさ 洗軍
 蒼古う帚跡あり 吟水
 指^は折^は尺よ一人^は芥^はかきつと^は 岸

あきさるる

別^は離^は本^はまで^はあ^はむ^は形^は何^はの^は南^は
 ち^は一^はあり^はや^はそ^はれ^はむ^はふ^は別^はあ^はる^はも^は 信由
 吉^はの^は戸^はて^はい^はれ^はは^はけ^はさ^はあり^は男^はセ^は夕^は 九尋
 い^はつ^はれ^はさ^はは^は蒼^はい^はふ^はか^は木^はよ^は夜^は文^は 嘉亨
 お^はれ^はあ^はつ^はを^はい^は難^は子^はも^は松^は柳^は 松菊
 尺^はぬ^は里^はや^はわ^はさ^はつ^はさ^は鈴^はら^はつ^は梅^は 瓜田
 喜^はれ^は書^はこ^は并^は古^はの^はこ^はう^は海^は鼓^はなる 机車
 辻^は占^はし^は物^はあ^はり^はあ^はり^は海^はら^はさ^はる 萩錦

後の葉はれてゐる夜や床は有 嵐

酒漸亭にて

酒^{中尾}もあの方乃花のうら 我思

地獄穴地獄業々^鬼 留^思えれ

石工の植わ傳や^李おくれ

地^吾も乃子とく^友 碓^可無^同長^足石^根が

大^根雨^風や^足苗^是を^是く^是は^是落^是し^是業^是業^是の^是花

碓^根も^風あ^是く^是は^是な^是も^是一^是 故^是乃^是命^是

橋^是乃^是流^是一^是毛^是の^是水^是乃^是り^是の^是南^是

抽^我上^我美^我ハ^我肘^我ぬ^我り^我は^我は^我ほ^我も^我き^我を^我

お^吉ひ^吉出^吉や^吉雪^吉の^吉蝕^吉の^吉歎^吉を^吉め

羨^里一^里毛^里一^里毛^里の^里風^里く^里る^里戸

暮^鳥ま^鳥夜^鳥殿^鳥よ^鳥二^鳥度^鳥は^鳥花^鳥や^鳥若^鳥き^鳥や^鳥お

秋^如風^如の^如あ^如さ^如か^如も^如り^如や^如店^如麻^如子^如

権^西乃^南新^西奇^南乃^西骨^南を^西一^南妹^西乃^南骨^西

云^大雨^坂乃^大定^坂い^大か^坂る^大り^大世^大々^大く^大れ

お^大帯^大々^大い^大き^大な^大り^大交^大坊^大と

お^大帯^大々^大い^大き^大な^大り^大交^大坊^大と

お^大帯^大々^大い^大き^大な^大り^大交^大坊^大と

お^大帯^大々^大い^大き^大な^大り^大交^大坊^大と

お^大帯^大々^大い^大き^大な^大り^大交^大坊^大と

お^大帯^大々^大い^大き^大な^大り^大交^大坊^大と

おのつゝゝ冠かゝる友んが
 土窓の側うも海さしむさうの肌
 柳こちれ雪さうさむゆへくこふ
 西幸玉さうりあり梅の月
 平脚し唱ハゆゝさ節一蝶乃これ
 雪見や理の扉を志此の流れ足
 志州や梅の爪も一葉乃蝶
 子乙女のあつゝさよ深松や
 朝日く多梅乃ほめ胡蝶介
 堀木
 嵐
 梅川
 雪隠
 柳川
 可眉
 百景
 堀木

ぼくさき秋一初れゆへ一哉
 梅子う妙さの梅と娘さ菊
 何れおさ春さお春を笑入州
 さうさお下か一海もさう一水
 太は考や茶漬よかゝる八重さう
 ささくたの寝さけうたゆゝ番右外
 金もてハ子板張乃うちうれ
 子観定を乃あきそ口押さ
 押切の市新もれ一苦うつ
 堀木
 蝶足
 瓜田
 梅南
 嘉子
 柳川
 亀丸
 鬼窟
 洗車

送る中や 遊む地や 川のきふ
 門をききつねて 来りて 友の坊
 子習ふ 雪も 黒むや 江戸大津
 大海より 雪を 降れ 沖まゝ 石
 餅花や 但懸る ぬて 肉巻 又
 奇よま ぬ下り ぬこ 世あり ぬ ぬ
 風や つのぬり ぬり ぬり ぬ
 友を 志れ ぬり ぬり ぬり 雀
 傾城の 給者 ぬり ぬり ぬり ぬ

可雨
 貞土
 狐車
 高尾
 瓜田
 蟹菊
 蝶足
 瑞木
 雀

植木屋

海の中や 小可り ぬり ぬり ぬり
 永種 ぬり ぬり ぬり ぬり 芋か
 若菜子や 同族 ぬり ぬり ぬり
 ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり
 此梅 ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり

訪屋水二首

何屋 ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり
 ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり
 ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり
 ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり

人工
 ぬり
 鬼睡

走乃術を

を有

詣

雪中杜宇と

全 を

浣昼舟

旅 を 舟 中 に あ る を 記 す

舟中吟

室 を 記 す

をめぐりて殿いほくそ夏の波

鏡足

汗乃ぬり流きつぎ 泳 昨哉

吾友

山ささよ雪垂る 子 けき 力

瑞木

花の枝不二乃くきり雪女

貞上

葉は花の横よ渡り咲垣のれ

鬼睡

夜ふきを蒲団ひとりのをれり

百里 は

白粉や真船うねよ舟乃風

九香

管もく月を故郷を忘せ時

蚊音

風さむく別れつきぬく仲志石

赤香

名月乃重う入戸を秋世の南

九香

橋木は幕押けありあろも文

瓜田

るあうり狐泣海ふぬをりれ

五友

狼の鳴りハちさうはも英ち

吟水

眉かんまつく梅流きめ丸し

我昔

足流り由を流し 中 地

老音

神流りあは流り巾又中雀

里童

花志れの荒れちり物よ橋の巻

鬼橋

葉せしてあこり流茶ハ流り

信由

益あろや 留見つけて 不二芳塾
 輝くや 唐うめさうて 木を抱え
 さやまめも 指乃るくくるぬんが
 又出てうき名流すの 茗荷汁
 鼻かめハ 聲をあつくる せりり
 御宮や 画よ志むぬの ぶ祥
 老人う 以中 脱若く 遅さく
 世守 牽を車や 一志ほり
 辻占す 物替よめ乃 凍ささる
 蘇海 槿南 瓜田 楓草 山助 蕨 冬十 志高

唯禪坊をよめて

三枚う豆腐おろして 酢乃穿茂

園水

唯禪坊のらねる 袋煮を
 すり斬り先をよこえて
 友乃らるる川をきめせけり

あや夢むつと たるせの せりら

全

回祿乃 誰のね 大守乃 隔とらふ
 而うかり 疾すうら せめかひる
 人のたふら 底さし せれて
 ちんまきり かしら せの 空う ぬ出ぬ

月卷乃 づうの あり せり せり

全 全

閏月下澣於東山即事

芽そり極誰し蕪利古乃括栝かり

園水

さしハ盡乃為汝吾徒此石

無他

喋香う面て結さる樹とあそ

雲敷

如こ栝枝乃さうそ

貞佐

おひのゝとて蒔菊を忍ぶよりと

園友

吐煙の未名寄まゝい

暮四

お立ち栝りさ里乃良そろえ

鞆石

細工淨りり少人とも

菊東

又よる減入ちと房乃下

江戸仙露

谷を登るそふハ澄合

李栝

よ栝をさちえさる乃栝

巷巷真海

ほみれくと疎いのそん

之白

淮虎子イナカの骨う祿かけて

松風

洞乃殊の走ると板

九考

川筑垣天井乃あきなる花

赤考

電あゆむそん靴の鏡

鬼睡

衣紋汝坂蒼乃鏡のあそおりて

吾友

杉凡廻ハ栝と柳り

蚊背

非諧一枚起請跋

有教有機有時有國故年居價先
入禪定觀察此四而開八方法哉亦
無量機在在猶然正像已過稍墜澆
季以易行道不引攝者金口唐捐子
總魚有上根少在屬無也詩也俳也真
俗二諦臨機在在變隨義轉用也豈有
隔塵乎哉

團水閃人一種敬人謾各

